

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪学院大学
設置者名	学校法人大阪学院大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
商学部	商学科	夜・通信	25	0	16	41	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		0	38	63	13	
	ホスピタリティ経営学科	夜・通信		0	60	85	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		0	15	40	13	
法学部	法学科	夜・通信		0	10	35	13	
外国語学部	英語学科	夜・通信		0	8	33	13	
国際学部	国際学科	夜・通信		0	7	32	13	
情報学部	情報学科	夜・通信		0	34	59	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ogu.ac.jp/students/points/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪学院大学
設置者名	学校法人大阪学院大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/report/>
「役員等名簿」

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2025年6月9日～ 2027年度の定時評議員会 終了時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	医療法人役員	2025年6月9日～ 2027年度の定時評議員会 終了時	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪学院大学
設置者名	学校法人大阪学院大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各教授会で科目担当者を決定した後、前年 11 月下旬に教員にシラバス作成 (Web 入稿) を依頼する。その後、各学部が記載内容の確認を行い、必要に応じて修正を加え、3 月上旬にホームページ上に公開する。シラバスの記載内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 (演習) テーマ ・ 講義 (演習) 概要 ・ 卒業認定・学位授与の方針との関連 ・ 到達目標 ・ 講義スケジュール (授業計画) ・ 評価基準・方法 ・ 授業外学習の指示 ・ 履修上の注意 ・ オフィスアワー ・ 教科書 ・ 参考文献 ・ 関連 URL ・ 担当者からの一言 	
授業計画書の公表方法	<p>https://portal.osaka-gu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

担当教員は各科目のシラバスに記載した方法により評価を行い、合格した受講生には所定の単位が授与される。評価の基準は次のとおり設定し、ホームページ等で公表している。

評点	評価	可否
100点～90点	S	合格
89点～80点	A	
79点～70点	B	
69点～60点	C	
59点～40点	D	不合格
39点～0点	E	
成績認定	R	認定(合格)

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAは、1単位あたりの成績の平均値を示すものである。GPAの算出基礎となる科目は、教職などの資格課程科目および認定科目を除く卒業要件の対象となる科目とする。

成績評価基準とポイント (GP)

評価	ポイント (GP)	GPAにおいて総登録単位数(分母)が計算の基礎となる
S	4.0	
A	3.0	
B	2.0	
C	1.0	
D	0.0	
E	0.0	
R	GPAの計算対象外	

GPAの算出式

GPAは、S～Eの段階評価が行われた全ての科目の評価をポイントに換算して、その単位数の平均点を算出する。

$$GPA = (S \text{ の修得単位数} \times 4.0 + A \text{ の修得単位数} \times 3.0 + B \text{ の修得単位数} \times 2.0 + C \text{ の修得単位数} \times 1.0) \div \text{総登録単位数}$$

※総登録単位数には、Rおよび卒業要件外の単位は含まない。

■GPA分布状況公表方法

https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/release/ir/survey_gpa.html

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大阪学院大学 学修要項

<https://www.osaka-gu.ac.jp/course/2026/index.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

■商学部

商学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（商学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・幅広い教養と商業に関連する、基本的かつ専門的な知識を身につけている。
- ・実践的な情報リテラシーとコミュニケーション能力を備えている。
- ・経済社会における諸問題の解決能力を備えている。
- ・ビジネス活動の社会的貢献と責任を理解することができる。
- ・獲得した知識・技能等を総合的に活用して課題を解決する能力を備えている。
- ・課題解決能力を支える視野の広い実践的な人格や態度を有している。

■経営学部 経営学科

経営学部経営学科では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。
- ・経営・管理に必要な基礎知識と技能を習得している。
- ・基礎知識・技能に基づく問題解決能力を身につけている。
- ・チームの一員として協働するコミュニケーション能力を身につけている。
- ・社会性を意識しつつ、挑戦する力を備えている。
- ・世界を見据えた経営・管理能力を身につけている。

■経営学部 ホスピタリティ経営学科

経営学部ホスピタリティ経営学科では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（ホスピタリティ経営学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。
- ・ホスピタリティ業界におけるリーダーとして運営・経営・管理の知識を習得している。
- ・理論を実践に応用し、行動につなげる力を備えている。
- ・ホスピタリティ精神（柔軟性・チームワーク）を活かしたビジネスコミュニケーションスキルを身につけている。
- ・ホスピタリティ業界の職業倫理を理解し、現場力を備えている。
- ・ホスピタリティ業界のグローバル化に対応する語学力と国際感覚を備えている。

■経済学部

経済学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身に付けるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に、学長の承認を経て卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・物事を合理的・論理的に判断するための思考力を身に付けている。

- ・情報の収集・分析・発信に必要な基礎的・専門的スキルを習得している。
- ・現代社会が抱える様々な課題に対する理解・問題意識を高めている。
- ・社会の変化を多面的に把握するための幅広い知識・視点を身に付けている。

■法学部

法学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、本学の学則に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（法学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・幅広い教養と社会に対する深い関心をもち、問題の本質を見極める能力。
- ・主要な実定法のルールおよび基礎概念について説明できる能力。
- ・正義・公平などの法原則に照らして妥当な結論を論理的に導き出し、問題を解決する能力。
- ・積極的・主体的なコミュニケーションを通じて、他者と信頼関係を築き、社会に貢献する能力。

■外国語学部

外国語学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（英語学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・専攻科目や共通科目（言語）で学修した外国語の基本語彙や基本文法をもとに、幅広い領域の知識と教養を身につけ、より高い外国語の運用能力を実践することができる。
- ・専攻科目や演習科目を通じて、協調性を大切にし、自らの考えをまとめ、相手が理解できるよう、意見を発表し、討論・対話をおこなうことができる。
- ・専攻科目の学修を通じて、加速するグローバル化に対応する高度な英語力と独創性さらに実践力を身につけ、物事を広い視野で見ることができる。

■国際学部

国際学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に対し卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・アジア環太平洋地域と国際協力に関する幅広い知識を身につけている。
- ・国際的なコミュニケーション・スキルや論理的思考力を身につけ、応用できる。
- ・自分で課題を設定し、情報を収集分析し、その課題を主体的に解決することができる。
- ・世界および日本の文化の多様性を尊重し、視野の広い実践的人材として社会で積極的に行動できる。

■情報学部

情報学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（情報）の学位を授与する。

養成する能力	
<ul style="list-style-type: none">・幅広い教養を身につけ、物事を多面的に考察する力。・コンピュータサイエンスの基礎と人間の情報処理の基本的理解。・情報コンテンツを始めとする情報通信技術の応用分野についての概括的な知識。・数理的・論理的に思考する能力。・他者とも有効な議論を行うことによって問題を解決する力。・現代社会における情報システムの役割を理解し、倫理的な問題についても正しい判断を導く能力。・獲得した知識や技能を総合し、広い視野を持って、新しい技術にも対応できる実践的な課題解決能力。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪学院大学
設置者名	学校法人大阪学院大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/report/
財産目録	https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/report/
事業報告書	https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/report/
監事による監査報告(書)	https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公式ホームページ「教育情報の公開・大学評価」 「内部質保証」 https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/evaluation2.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公式ホームページ「教育情報の公開・大学評価」 「認証評価」 https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/evaluation.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 商学部 商学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/01.html)
(概要) 企業におけるマーケティングとビジネス・コミュニケーションを核としたビジネス分野の基礎的、専門的研究を通じ、深い教養及び総合的な判断力を持つことのできる人材の育成をめざす。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/03.html)
(概要) 商学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士(商学)の学位を授与する。 養成する能力 ・幅広い教養と商業に関連する、基本的かつ専門的な知識を身につけている。 ・実践的な情報リテラシーとコミュニケーション能力を備えている。 ・経済社会における諸問題の解決能力を備えている。 ・ビジネス活動の社会的貢献と責任を理解することができる。 ・獲得した知識・技能等を総合的に活用して課題を解決する能力を備えている。 ・課題解決能力を支える視野の広い実践的な人格や態度を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/04.html)
(概要) 商学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を養成するため、以下のとおり教育課程を編成・実施する。 ・マーケティング、グローバルビジネス、財務情報に関する各種科目を設け、さらにその周辺科目も多数配することで、商学の体系的な学修による経済社会についての情報収集・分析・発信能力の涵養を促す。 ・順次性をもって学修できるように、専門科目の年次配列に配慮し、効果的な学修を促進している。 ・視野の広い実践的な人格・社会人としての正しい見識や倫理感を培い、獲得した知識・技能等を総合的に活用して課題を解決する能力を涵養するために、1年次から4年次のすべてにゼミナールを設け、継続的指導をおこなっている。特にゼミナールⅠでは、少人数教育のもとにきめ細かい指導をおこなうことで、初年次教育を徹底する。 ・簿記や販売士など多数の資格関連科目を設け、積極的に資格取得を促すことで、実学を重視したキャリア関連教育にも留意している。 ・マーケティング、グローバルビジネス、財務情報の3コースを設け、それぞれに必修および選択必修科目をその内容にかんがみて年次別に配することで、体系的な学修を促す。

履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：刊行物及びウェブサイト）

（概要）

入学者受入れの方針については、全学部・学科において、それぞれ定めており、求める学生像や選抜方法等と併せ、刊行物（入試ガイド）及びウェブサイト（公式ホームページ、入試情報サイト）に掲載している。

なお、入試ガイドについては資料請求者等に一般配布している。

さらに、オープンキャンパス、高等学校訪問、進学説明会、大学見学会などの様々な機会を通じて、受験者や保護者、高等学校教員に周知を行っている。

商学部の入学者受入れの方針については次のとおりである。

商学部では、商学、特にマーケティング、グローバルビジネス、財務情報の分野に強い関心を持つ、次のような学生を受け入れる。

【求める学生像】

1. 日本経済の中核を担っている様々な産業での活躍を志しているチャレンジ精神旺盛な人
2. 消費者の立場に立って、調和のとれた豊かな経済社会の実現を志している人
3. 消費者が求める商品やサービスの企画・生産・販売について考えることができる創造性豊かな人
4. 授業で学んだ知識や体験したことを基礎に、国際的な視野を持ち、実際の社会で生かす意欲を持っている人

【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】

国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科、情報、商業簿記等、高等学校卒業相当の知識を有していること。

【高等学校で取得するのが望ましい資格等】

1. 高等学校での学習を通じて得られた外国語、商業簿記、情報処理等の資格
2. 高等学校での様々な課外活動やボランティア活動に取り組むことによって得られた成果および実績

上記のような学生を受け入れるために、「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」および「その他の選抜」により、入学後に必要となる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を備えている者を多面的・総合的に評価し、判定する。

公式ホームページ：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/06.html>

入試情報サイト：<https://www.ogu.ac.jp/admissions/>

学部等名 経営学部 経営学科/ホスピタリティ経営学科

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/01.html>）

<p>(概要)</p> <p>【学部全体】 現代企業が抱える諸問題の本質を分析し、実践の場での問題解決の有効な手段となる研究・教育を通じて、社会の経済的・倫理的要請に応える実践的な人材の育成をめざす。</p> <p>【経営学科】 社会に対する貢献と責任を果たすために必要な経営・管理能力の養成を通じ、経営学と語学力を備えた視野の広い人材の育成をめざす。</p> <p>【ホスピタリティ経営学科】 ホスピタリティ産業における固有の理論と実践的経験を通して、学問的知識の修得と人格陶冶のなされた人材の育成をめざす。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/03.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>【経営学科】 経営学部経営学科では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与する。</p> <p>養成する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。 ・経営・管理に必要な基礎知識と技能を習得している。 ・基礎知識・技能に基づく問題解決能力を身につけている。 ・チームの一員として協働するコミュニケーション能力を身につけている。 ・社会性を意識しつつ、挑戦する力を備えている。 ・世界を見据えた経営・管理能力を身につけている。 <p>【ホスピタリティ経営学科】 経営学部ホスピタリティ経営学科では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（ホスピタリティ経営学）の学位を授与する。</p> <p>養成する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。 ・ホスピタリティ業界におけるリーダーとして運営・経営・管理の知識を習得している。 ・理論を実践に応用し、行動につなげる力を備えている。 ・ホスピタリティ精神（柔軟性・チームワーク）を活かしたビジネスコミュニケーションスキルを身につけている。 ・ホスピタリティ業界の職業倫理を理解し、現場力を備えている。 ・ホスピタリティ業界のグローバル化に対応する語学力と国際感覚を備えている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/04.html)</p>

(概要)

【経営学科】

経営学部経営学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を養成するため、以下のとおり教育課程を編成・実施する。

- ・経営者・管理者として必要な幅広い教養と豊かな人間性を涵養するため、共通科目を設ける。
- ・順次性をもって学修できるよう1年次に「基礎科目」を設け、経営学を学ぶ上での基礎的な知識を養う。2年次以降に「経営基幹科目」「経営応用科目」「経営関連科目」「経営グローバル科目」を設け、幅広い専門知識を学修することで知識・技能に基づく問題解決能力を養う。
- ・コース制を設け、各コースに必修科目を設けることにより各コースの基軸となる知識を修得させる。また、興味や関心に応じてコースごとに専門知識を学ぶことで体系的な学修を促す。
- ・コミュニケーション能力やチームの一員として協働する社会性を養い、さらに専門分野の学修を通して経営・管理能力を深め、新たな課題に挑戦する力を涵養するために「演習科目」を設け、少人数教育を実施する。
- ・語学力や国際的視野を養い、世界を見据えた視点を身につけさせるために「経営グローバル科目」を設ける。

履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

【ホスピタリティ経営学科】

経営学部ホスピタリティ経営学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を養成するため、以下のとおり教育課程を編成・実施する。

- ・ホスピタリティ業界のリーダーとして必要な幅広い教養と豊かな人間性を涵養するため、共通科目を設ける。
- ・順次性をもって学習できるよう1年次にホスピタリティ産業の入門科目、「基礎科目群」「経営学基礎科目群」を設け、社会人基礎力やホスピタリティ・マネジメントを学ぶ上での基礎的な知識を養う。2年次以降にホスピタリティ産業の概論科目やケーススタディ科目を設け、専門知識を深く学ぶことで理論を実践に応用できる能力を養う。
- ・ホスピタリティ業界の基盤となる知識を修得させるために「コア科目」、ホスピタリティ業界の実践的な知識と技能を涵養するために「業界科目」、運営・経営・管理の手法を多角的かつ実践的に修得させるために「専門科目」を設けることで体系的な学修を促す。
- ・ホスピタリティ業界の現場に必要なコミュニケーション能力・問題発見能力・企業の概観を知る能力を涵養するために「企業実習」を設ける。
- ・ホスピタリティ・マネジメントの専門知識の深化を図り、職業倫理を備えた行動力を涵養するために「演習科目」を設け、少人数教育を実施する。
- ・ホスピタリティ業界に特化した語学科目や国際的視野を養う科目を設け、語学力と国際感覚を身につけさせる。

履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：刊行物およびウェブサイト）

（概要）

入学者受入れの方針については、全学部・学科において、それぞれ定めており、求める学生像や選抜方法等と併せ、刊行物（入試ガイド）及びウェブサイト（公式ホームページ、入試情報サイト）に掲載している。

なお、入試ガイドについては資料請求者等に一般配布している。

さらに、オープンキャンパス、高等学校訪問、進学説明会、大学見学会などの様々な機会を通じて、受験者や保護者、高等学校教員に周知を行っている。

経営学部の入学者受入れの方針については次のとおりである。

（1）経営学科

経営学科では、広い視野で経営・管理能力を発揮できる経営学の知識と語学力の習得に強い関心を持つ、次のような学生を受け入れる。

【求める学生像】

1. 企業の経営の仕組みに関心があり、また、経営の問題解決能力を実践的に身につけたい人
2. 事業の後継者であり、中小企業の仕組みを学びたい人
3. 起業に関心があり、企業経営者として活躍したい人
4. ビジネス英語に関心があり、グローバル企業の経営者・管理者として活躍したい人

【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】

国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科等、高等学校卒業相当の知識を有していること。

【高等学校で取得するのが望ましい資格等】

高等学校での学習や活動を通じての外国語、商業簿記、情報処理等の各種検定資格。

上記のような学生を受け入れるために、「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」および「その他の選抜」により、入学後に必要となる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を備えている者を多面的・総合的に評価し、判定する。

（2）ホスピタリティ経営学科

ホスピタリティ経営学科では、ホスピタリティ業界のリーダーに必要な運営・経営・管理の知識の習得に強い関心を持つ、次のような学生を受け入れる。

【求める学生像】

1. ホスピタリティ産業（ホテル、旅館、料飲店、ブライダル、ツーリズム、エアライン、テーマパーク）に関心があり、その運営者・経営者・管理者として活躍したい人
2. ホスピタリティ企業の運営・経営・管理の仕組みに関心があり、また、問題解決能力を実践的に身につけたい人
3. ホスピタリティ業界での実践的な体験に興味があり、現場に必要な能力を身につけたい人
4. ホスピタリティ英語に関心があり、グローバルなホスピタリティ企業の運営者・経営者・管理者として活躍したい人

【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】

国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科等、高等学校卒業相当の知識を有していること。

【高等学校で取得するのが望ましい資格等】

高等学校での学習や活動を通じての外国語、商業簿記、情報処理等の各種検定資格。

上記のような学生を受け入れるために、「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」および「その他の選抜」により、入学後に必要となる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を備えている者を多面的・総合的に評価し、判定する。

公式ホームページ：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/06.html>

入試情報サイト：<https://www.ogu.ac.jp/admissions/>

学部等名 経済学部 経済学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/01.html>)

(概要)

経済情勢の変化に適応できる幅広い経済的知識の修得を通じて、実践的な研究活動や社会貢献を志向し、平和な発展した社会を形成する能力を有する自立した人材の育成をめざす。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/03.html>)

(概要)

経済学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身に付けるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に、学長の承認を経て卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・物事を合理的・論理的に判断するための思考力を身に付けている。
- ・情報の収集・分析・発信に必要な基礎的・専門的スキルを習得している。
- ・現代社会が抱える様々な課題に対する理解・問題意識を高めている。
- ・社会の変化を多面的に把握するための幅広い知識・視点を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/04.html>)

(概要)

経済学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を養成するために、以下のとおり教育課程を編成・実施する。

なお、専攻科目および演習科目と養成する能力の関係についてはカリキュラムマップに、専攻科目および演習科目の体系的・順次性についてはカリキュラムツリーにそれぞれ明示し、評価基準・方法を授業の開講前にシラバスで明示する。

- ・ 共通科目と専攻科目を設置し、専門教育を含む幅広い教養を身に付けることで学士として求められる幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い豊かな人間性を涵養することをめざす。 ※1
- ・ コース制を設置し、興味や関心に応じてコースごとに基礎と専門知識を体系的に学べるようにする。 ※2
- ・ 1年次に「基礎科目」を設置し、経済学を学ぶ上で前提となる制度・歴史・理論の基礎的な知識を修得する。 ※3
- ・ 「コース科目」を設置し、それぞれのコースに必要な幅広い専門知識を体系的かつ順次的に学修する。 ※4
- ・ 1年次から4年次まで「演習科目」を設置し、4年間一貫した少人数教育の学修機会を提供する。 ※5
- ・ 「関連科目」を設置して、「基礎科目」「コース科目」「演習科目」では十分に提供できない卒業認定・学位授与の方針で定めた「養成する能力」の教育内容を補完する。 ※6

各項目の実施については次のように定める。

- ※1 ・ 共通科目に「初年次教育」「教養」「言語」「実務基礎」の科目区分を設ける。
 - ・ 専攻科目に「基礎科目」「コース科目」「コース外科目」「関連科目」を設ける
- ※2 [産業経済コース]
情報化・グローバル化した現代の産業部門が社会や経済に果たす役割と与える影響を理解するために必要な科目を設ける。
[公共経済コース]
公共部門が社会や経済に果たす役割と与える影響を理解するために必要な科目を設ける。
[スポーツ経済コース]
現在の経済社会におけるスポーツの多様な価値の理解と可能性を探究するために必要な科目を設ける。
[グローバル・エコノミーコース]
経済学的思考力と国際感覚をともなう判断能力を身に付けるために必要な科目を設ける。
- ※3 ・ 経済の諸制度を学ぶ「経済入門」を設定して、高校での知識の確認と大学での専門教育へと円滑につなぐ。
 - ・ 理論系科目と歴史系科目を設定して、それぞれのコースの専門分野に進むに必要な共通の基礎知識を養う。
- ※4 ・ コースごとに「理論」「分析・ツール」「政策・制度」「歴史」の科目区分を設け、年次が進むに従って各部門の専門性や特殊性を深化させる。
 - ・ 「理論」と「分析・ツール」の科目に先修性を設ける。
 - ・ 各コースに必修科目を設け、各コースの基軸となる知識を修得する。
 - ・ 各コースに共通の選択必修科目を設け、経済学の基礎知識から専門知識への修得につなげる。
 - ・ 各コースに独自の選択必修科目を設け、コースごとにそれぞれの特性に応じた

体系的な専門知識を修得する。

※5 [フレッシュマンゼミナール]

1年次生対象のゼミナールを前期と後期に設け、大学環境への適応ならびに大学で必要とされる学びの手段の初歩的領域を身に付けることをめざす。

[基礎ゼミナール]

2年次生対象のゼミナールを前期と後期に設け、将来の方向付けならびに大学で必要とされる学びの手段の基礎的領域を身に付けることをめざす。

[専門ゼミナール]

3年次生および4年次生対象のゼミナールをそれぞれ前期と後期に設け、経済学および周辺領域から選択した専攻分野の学修ならびに社会人としての自立をめざす。

[実践課題研究]

2年次から4年次配当のゼミナールに並行して特定の研究テーマについて発展的に学修する科目を設ける。

※6 「関連科目」に「スポーツサイエンス」「特別講義」「ワークショップ」「研修・留学」の科目区分を設ける。

[特別講義]

経済や社会への興味や関心を高めることを目的とし、現代社会の変化に対応したテーマや必要とされる幅広い知識を提供するために「経済学特別講義」を設ける。

[スポーツサイエンス]

スポーツ科学に関する基礎的および幅広い知識を身に付ける科目を設ける。

[ワークショップ]

特定の技能習得を目的とした、演習科目を補完する比較的少人数の科目を設ける。

[研修・留学]

グローバル化に対応できる能力の養成をめざして、海外研修や海外留学の科目（グローバル・エコノミーコースに限定）を設ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：刊行物およびウェブサイト）

（概要）

入学者受入れの方針については、全学部・学科において、それぞれ定めており、求める学生像や選抜方法等と併せ、刊行物（入試ガイド）及びウェブサイト（公式ホームページ、入試情報サイト）に掲載している。

なお、入試ガイドについては資料請求者等に一般配布している。

さらに、オープンキャンパス、高等学校訪問、進学説明会、大学見学会などの様々な機会を通じて、受験者や保護者、高等学校教員に周知を行っている。

経済学部での入学者受入れの方針については次のとおりである。

経済学部では、誰もがよりよく暮らせる社会—平和で発展した社会—の形成のために、経済と社会について主体的に学び研究する意志があり、われわれが生きる現代社会の課題と可能性について強い探求心を持つ、次のような学生を受け入れる。

【求める学生像】

1. 経済社会において、国内外の視点から企業・産業がどのような活動を行っているか、また、どのような役割と課題を持っているかについて学びたい人
2. 国や地方自治体の政策の在り方や環境問題から“まちづくり”・地域振興などの身近なテーマにチャレンジしたい人

3. スポーツと経済のかかわりに興味を持ち、経済学の視点からスポーツの可能性を探求したい人
4. 海外研修や留学等を通じて、国際的な視野と感覚を身につけ、グローバルな視点から経済を学びたい人

【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】

国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科、情報等、高等学校卒業相当の知識を有していること。

【高等学校で取得するのが望ましい資格等】

1. 高等学校での学習や活動を通じての数学、外国語、商業簿記、情報処理の各種検定資格等
2. スポーツや文化活動およびボランティア活動に取り組んであげた実績

上記のような学生を受け入れるために、「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」および「その他の選抜」により、入学後に必要となる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を備えている者を多面的・総合的に評価し、判定する。

公式ホームページ：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/06.html>

入試情報サイト：<https://www.ogu.ac.jp/admissions/>

学部等名 法学部 法学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/01.html)
(概要) 幅広い教養および法律学の専門知識ならびにリーガルマインドの修得を通じて、法を“ツール”に現代社会を“正しく”生き抜く人材の育成をめざす。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/03.html)
(概要) 法学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、本学の学則に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（法学）の学位を授与する。 養成する能力 ・幅広い教養と社会に対する深い関心を持ち、問題の本質を見極める能力。 ・主要な実定法のルールおよび基礎概念について説明できる能力。 ・正義・公平などの法原則に照らして妥当な結論を論理的に導き出し、問題を解決する能力。 ・積極的・主体的なコミュニケーションを通じて、他者と信頼関係を築き、社会に貢献する能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/04.html)

(概要)

法学部では、教育目標を達成するため、以下のとおり教育課程を編成・実施する。

- ・幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、基本的な能力を身につけさせるために、全学共通のカリキュラムとして共通科目を設ける。
- ・法学の専門知識とリーガルマインドを身につけさせるため、専攻科目を設け、段階的学修の便宜に配慮して、先修科目群、基幹科目群、展開科目群に分ける。
- ・初年次教育を徹底するために、初学者向けの先修科目とゼミナールを設け、登録を義務付ける。
- ・卒業後の進路の多様性に配慮し、コース制を設け、将来を見据えた学修を促す。
- ・他の学部の専攻科目の履修を広く認め、卒業必要単位数に算入できるものとする。
- ・知識の活用能力、論理的思考力、問題解決能力、表現力、コミュニケーション能力など、社会生活に必要な能力を育成するため、全学年に本学専任教員の担当による演習科目（ゼミナール）を設け、学生参加型の少人数教育を実施する。

履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：刊行物およびウェブサイト）

(概要)

入学者受入れの方針については、全学部・学科において、それぞれ定めており、求める学生像や選抜方法等と併せ、刊行物（入試ガイド）及びウェブサイト（公式ホームページ、入試情報サイト）に掲載している。

なお、入試ガイドについては資料請求者等に一般配布している。

さらに、オープンキャンパス、高等学校訪問、進学説明会、大学見学会などの様々な機会を通じて、受験者や保護者、高等学校教員に周知を行っている。

法学部の入学者受入れの方針については次のとおりである。

法学部では、幅広い教養および法律学の専門知識ならびにリーガルマインドの修得を通じて、法を“ツール”に現代社会を“正しく”生き抜く人材の育成を目的として、次のような学生を受け入れる。

【求める学生像】

1. 社会的な問題に関心が強い人
2. 法や裁判に興味がある人
3. 論理的思考力を高め、問題解決能力を身につけたい人
4. 正義感が強く、社会に貢献したい人
5. 好奇心が豊かで、チャレンジ精神が旺盛な人

【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】

国語、公民（公共、政治・経済等）等、高等学校卒業相当の知識を有していること。

【高等学校で取得するのが望ましい資格等】漢字能力検定試験等の上級資格（準2級以上）があれば望ましい。

上記のような学生を受け入れるために、「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」および「その他の選抜」により、入学後に必要となる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を備えている者を多面的・総合的に評価し、判定する。

公式ホームページ：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/06.html>
入試情報サイト：<https://www.ogu.ac.jp/admissions/>

学部等名 外国語学部 英語学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/01.html>)

(概要)

外国語によるコミュニケーション能力、幅の広い教養を修得し、語学のエキスパートでありながら、豊かな人間性と教養を兼ね備えた人材の育成をめざす。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/03.html>)

(概要)

外国語学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（英語学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・専攻科目や共通科目（言語）で学修した外国語の基本語彙や基本文法をもとに、より高い外国語の運用能力を実践することができる。
- ・専攻科目や演習科目を通じて、協調性を大切にし、自らの考えをまとめ、相手が理解できるよう、意見を発表し、討論・対話をおこなうことができる。
- ・専攻科目や共通科目等の学修を通じて、多様な文化に触れ、制度・慣習・言語・文化等における差異を認めたくえで相互理解・問題解決を図ろうとする姿勢を身につけ、物事を広い視野で見ることができる。

(2025年度生以降の入学生を対象)

養成する能力

- ・専攻科目や共通科目（言語）で学修した外国語の基本語彙や基本文法をもとに、幅広い領域の知識と教養を身につけ、より高い外国語の運用能力を実践することができる。
- ・専攻科目や演習科目を通じて、協調性を大切にし、自らの考えをまとめ、相手が理解できるよう、意見を発表し、討論・対話をおこなうことができる。
- ・専攻科目の学修を通じて、加速するグローバル化に対応する高度な英語力と独創性さらに実践力を身につけ、物事を広い視野で見ることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/04.html>)

(概要)

外国語学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を養成するため、以下のとおり教育課程を編成・実施する。

- ・共通科目では、社会人として必要な幅広い教養を培うための科目を設置する。
- ・専攻科目では、外国語の基本語彙や基本文法の修得を目標に、1年次からネイティブスピーカーの授業を含む少人数クラスの基礎科目を必修とする。
- ・専攻科目では、コース制を設け、卒業後の進路に応じて2年次からコースを選択し、各コースに必要な専門知識を体系的に学修する。

- ・専攻科目では、より高い外国語の運用能力を高めることを目標に、語学関係の資格取得を支援する応用科目を設置する。
- ・専攻科目や共通科目では、世界の制度・慣習・言語・文化等に関する総合的かつ専門知識を深めるために多様な科目を設置する。
- ・演習科目では、グループ・ワークやディスカッションなどを通じて他者とのコミュニケーション能力や協調性、課題発見能力、問題解決能力の育成を図る4年間一貫教育を実施する。1年次ゼミナールにおいては、日本語を「読む」「書く」「論理的に話す」といった基本的リテラシーの修得を図る初年次教育を徹底する。

履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

(2025年度生以降の入学生を対象)

外国語学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を養成するため、以下のとおり教育課程を編成・実施する。

- ・共通科目では、社会人として必要な幅広い教養を培い、外国語の運用能力を高める科目を設置する。
- ・専攻科目では、グローバル化に対応する高度な英語力、独創性、実践力が育成できる多様な科目を設置する。
- ・専攻科目では、より高い外国語の運用能力を高めることを目標に、語学関係の資格取得を支援する科目や、国際文化及び国際社会を横断的、俯瞰的に学べる科目を設置する。
- ・英語学専攻の専攻科目では、コミュニケーション能力の土台を構築し、英語の応用力を身につけ、異文化を理解し国際業務を担う資質・スキル等の実践力強化が図れるよう3つの科目群を設置する。
- ・Global Studies 専攻の専攻科目では、系統的・段階的に英語力を高め、英語の応用能力を引き上げ、グローバル社会で活躍できるよう3つの科目群を設置する。
- ・演習科目では、グループ・ワークやディスカッションなどを通じて他者とのコミュニケーション能力や協調性、課題発見能力、問題解決能力の育成を図る4年間一貫教育を実施する。1年次ゼミナールにおいては、日本語を「読む」「書く」「論理的に話す」といった基本的リテラシーの修得を図る初年次教育を徹底する。

履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：刊行物及びウェブサイト）

（概要）

入学者受入れの方針については、全学部・学科において、それぞれ定めており、求める学生像や選抜方法等と併せ、刊行物（入試ガイド）及びウェブサイト（公式ホームページ、入試情報サイト）に掲載している。

なお、入試ガイドについては資料請求者等に一般配布している。

さらに、オープンキャンパス、高等学校訪問、進学説明会、大学見学会などの様々な機会を通じて、受験者や保護者、高等学校教員に周知を行っている。

外国語学部の入学者受入れの方針については次のとおりである。

外国語学部では、本学部での勉学に強い関心を持つ、次のような学生を受け入れる。

【求める学生像】

1. 外国語の高度な運用能力を身につけたい人
2. 国内・海外にかかわらず国際的な場で活躍したい人
3. 多様な文化に触れることに興味がある人
4. 公教育のみならず広く英語教育に関心がある人
5. 英語圏の言語、文化、芸術、歴史、生活等について深い知識を持ちたいと思う人

【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】

外国語において優秀な成績を修めているだけでなく、特に国語、地理歴史等の分野・科目でも十分な成績・知識を有していることが望ましい。

【高等学校で取得するのが望ましい資格等】

高等学校での学習、スポーツ、その他活動等を通じて得られた実績や成果（例：検定試験、スピーチコンテストの成績等）。

上記のような学生を受け入れるために、「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」および「その他の選抜」により、入学後に必要となる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を備えている者を多面的・総合的に評価し、判定する。

公式ホームページ：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/06.html>

入試情報サイト：<https://www.ogu.ac.jp/admissions/>

学部等名 国際学部 国際学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/01.html>)

(概要)

アジア環太平洋地域と国際協力に対する理解を育み、体験型学修を通じて、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション力を備えた、現場で発想し行動できる実践的人材の育成をめざす。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/03.html>)

(概要)

国際学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に対し卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・アジア環太平洋地域と国際協力に関する幅広い知識を身につけている。
- ・国際的なコミュニケーション・スキルや論理的思考力を身につけ、応用できる。
- ・自分で課題を設定し、情報を収集分析し、その課題を主体的に解決することができる。
- ・世界および日本の文化の多様性を尊重し、視野の広い実践的人材として社会で積極的に行動できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/04.html>)

(概要)

国際学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を養成するため、以下のとおりの教育課程を編成・実施する。

- ・国際化の進む現代における国際的教養や発展するアジア環太平洋地域の理解に関する科目、およびそれらを応用した国際協力を含む多彩な科目を配置する。
- ・少人数でおこなわれる参加型の語学科目および基礎学力を培う科目を配置する。
- ・提携大学への留学によって、異文化の中での生活を体験することを趣旨とする科目を配置する。
- ・以上の諸科目を順次性をもって学習できるように、コースを設けて、専門科目の年次別に配慮し、効果的な学修を促している。また、各自の専攻するコースを超えて幅広く関心ある共通科目や専攻科目を履修して学際的視野を養うことも推奨している。
- ・各年次に演習科目を必修科目として配置し、研究や討論を実践的に積み重ねる少人数の参加型授業を実施することで、課題解決型の学習方法を身につける。
- ・1年次の演習科目では、少人数教育のもと、きめのこまかい指導をおこなうことで、初年次教育を徹底する。

履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：刊行物及びウェブサイト）

(概要)

入学者受入れの方針については、全学部・学科において、それぞれ定めており、求める学生像や選抜方法等と併せ、刊行物（入試ガイド）及びウェブサイト（公式ホームページ、入試情報サイト）に掲載している。

なお、入試ガイドについては資料請求者等に一般配布している。

さらに、オープンキャンパス、高等学校訪問、進学説明会、大学見学会などの様々な機会を通じて、受験者や保護者、高等学校教員に周知を行っている。

国際学部の入学者受入れの方針については次のとおりである。

国際学部では、国際学の分野に強い関心を持つ、次のような学生を受け入れる。

【求める学生像】

1. 地球環境・国際紛争・飢餓や貧困・海外援助や国際協力等、国際社会が直面する様々な課題に関心があり、将来はそれらに関連する分野で日本と世界に貢献したいと考えている人
2. 異なる文化や習慣を持つ人々との交流や共生に関心を持ち、将来は海外の人々と直結する産業や国際交流等の分野で自分の力を発揮したいと考えている人
3. 海外諸国の中でも、現在の国際社会で存在感を強め、日本とも関係が深いアジア環太平洋地域の国々の文化・政治・経済等に関心があり、将来は日本とアジア環太平洋地域にまたがる産業や国際交流の分野で活躍することをめざしている人

【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】

地理歴史・公民・外国語など、国際理解や異文化理解に関連する教科・科目の十分な知識を有していること。

【高等学校で取得するのが望ましい資格等】

1. 英検・TOEIC®・TOEFL®等英語に係る資格および漢字・情報処理等の検定資格

<p>2. 資格ではないがボランティア活動や海外への留学や研修、海外での生活、ホストファミリー等、異なる文化との交流の経験を持っているのも望ましい</p> <p>上記のような学生を受け入れるために、「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」および「その他の選抜」により、入学後に必要となる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を備えている者を多面的・総合的に評価し、判定する。</p> <p>公式ホームページ：https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/06.html 入試情報サイト：https://www.ogu.ac.jp/admissions/</p>
--

<p>学部等名 情報学部 情報学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/01.html)</p> <p>(概要) 情報と人間についての深い理解と情報通信技術の専門知識の修得を通じ、高度情報化社会で活躍できる人材の育成をめざす。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/03.html)</p> <p>(概要) 情報学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士(情報)の学位を授与する。</p> <p>養成する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養を身につけ、物事を多面的に考察する力。 ・コンピュータサイエンスの基礎と人間の情報処理の基本的理解。 ・情報コンテンツを始めとする情報通信技術の応用分野についての概括的な知識。 ・数理的・論理的に思考する能力。 ・他者とも有効な議論を行うことによって問題を解決する力。 ・現代社会における情報システムの役割を理解し、倫理的な問題についても正しい判断を導く能力。 ・獲得した知識や技能を総合し、広い視野を持って、新しい技術にも対応できる実践的な課題解決能力。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/04.html)</p> <p>(概要) 情報学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を養成するため、以下のとおり教育課程を編成・実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通科目により、幅広い教養と豊かな人間性を身につける。 ・1年次から基幹クラスタとして情報学の基礎科目を置く。ここには、コンピュータサイエンスやコンテンツテクノロジーを学ぶための基礎となるプログラミング等の科目と、人間の情報処理の基本を学ぶための科目を配置する。 ・2年次から応用的な展開クラスタを置く。ここには、コンピュータの仕組みやソフトウェアの理論と技術を学ぶ「コンピュータのハードウェアとソフトウェア」、情

報システムやネットワークの基礎理論と基盤技術を学ぶ「情報システムとネットワーク」、マルチメディア情報とコンテンツ制作の理論と技術を学ぶ「マルチメディアとコンテンツ技術」、コンテンツビジネスの仕組みやコミュニケーションに必要な人間の心理や言語の特徴を学ぶ「情報ビジネスと社会」、情報分析の理論と方法を実践的に学ぶ「データ情報の活用」の5つのクラスタを設置する。

- ・数理的・論理的に思考する能力を養い、コミュニケーション能力を向上させるために、少人数の実践的な演習科目としてゼミナールⅠ、Ⅱを設置する。また、プログラミング科目を必修とし、論理的思考能力の向上を図る。
- ・情報社会と倫理に関する科目を用意し、情報系の学部として社会との関わりや倫理を教育するカリキュラムを充実させる。
- ・専攻科目で学んだ知識を総合し、広い視野を持って、自ら新しい課題に取り組むための実践的な演習科目としてゼミナールⅢ、卒業研究をそれぞれ3、4年次に配置する。

履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：刊行物及びウェブサイト）

（概要）

入学者受入れの方針については、全学部・学科において、それぞれ定めており、求める学生像や選抜方法等と併せ、刊行物（入試ガイド）及びウェブサイト（公式ホームページ、入試情報サイト）に掲載している。

なお、入試ガイドについては資料請求者等に一般配布している。

さらに、オープンキャンパス、高等学校訪問、進学説明会、大学見学会などの様々な機会を通じて、受験者や保護者、高等学校教員に周知を行っている。

情報学部の入学者受入れの方針については次のとおりである。

情報学部では、情報と人間についての深い理解と情報通信技術の専門知識の修得を通じ、高度情報化社会で活躍できる人材の育成をめざし、次のような学生を受け入れる。

【求める学生像】

1. 知的好奇心と探究心が旺盛な人
2. 「コンピュータサイエンス」と「人間の情報処理」について深く学びたいという熱意のある人
3. 自ら目標を設定し、その達成に向けて計画を立て、粘り強く実行できる強い自律心と行動力のある人
4. ものごとを整理し、系統立てて考えられる数理的・論理的思考力のある人
5. 他者と有効な議論を行ってコミュニケーションをとることで問題解決する力のある人
6. 新しい技術にも対応できる柔軟な発想のできる人

【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】

数学（数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）、情報（情報Ⅰ）において高等学校卒業相当の知識を有していること。

【高等学校で取得するのが望ましい資格等】

高等学校での学習や活動を通じての、外国語や情報処理の各種検定資格等。

上記のような学生を受け入れるために、「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」および「その他の選抜」により、入学後に必要となる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を備えている者を多面的・総合的に評価し、判定する。

公式ホームページ：<https://www.ogu.ac.jp/guide/outline/purpose/06.html>

入試情報サイト：<https://www.ogu.ac.jp/admissions/>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/release/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
商学部	—	12人	3人	1人	0人	0人	16人
経営学部	—	17人	6人	7人	0人	0人	30人
経済学部	—	19人	8人	4人	0人	0人	31人
法学部	—	10人	8人	2人	0人	0人	20人
外国語学部	—	6人	8人	3人	0人	0人	17人
国際学部	—	8人	2人	3人	0人	0人	13人
情報学部	—	13人	5人	1人	0人	0人	19人
その他	—	5人	2人	6人	2人	0人	15人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		137人					137人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/release/introduction.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>2025年度は、以下の3回のFD・SD講演会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回：「学内で生じうるハラスメントに対する理解とその予防」（対面開催） ・第2回：「日本の高等教育の課題と可能性～学びを人の成長へ～」（対面開催） ・第3回：「生成AI活用時代におけるOGU数理・データサイエンス・AI教育プログラムの授業改善と展開」（オンライン開催） <p>講演内容およびアンケート結果は、各種会議で報告するとともに、毎年「FD・SD活動報告書」にまとめ、学内教員用サイト「WEB LOGOS」にアップロードしている。また、同サイトにおいてアーカイブ動画をいつでも視聴できるようにしており、公式ホームページでは実施報告を公開している。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
商学部	150人	193人	128.7%	600人	682人	113.7%	－人	34人
経営学部	380人	449人	118.2%	1,520人	1,772人	116.6%	－人	8人
経済学部	400人	566人	141.5%	1,600人	1,810人	113.1%	－人	0人
法学部	150人	170人	113.3%	600人	491人	81.8%	－人	0人
外国語学部	120人	117人	97.5%	480人	412人	85.8%	－人	2人
国際学部	80人	111人	138.8%	320人	304人	95.0%	－人	1人
情報学部	100人	123人	123.0%	400人	454人	113.5%	－人	4人
合計	1,380人	1,729人	125.3%	5,520人	5,925人	107.3%	－人	49人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
商学部	144人 (100%)	1人 (0.7%)	125人 (86.8%)	18人 (12.5%)
経営学部	370人 (100%)	5人 (1.4%)	310人 (83.8%)	55人 (14.9%)
経済学部	339人 (100%)	1人 (0.3%)	303人 (89.4%)	35人 (10.3%)
法学部	120人 (100%)	3人 (2.5%)	92人 (76.7%)	25人 (208%)
外国語学部	85人 (100%)	0人 (0.0%)	72人 (84.7%)	13人 (15.3%)
国際学部	63人 (100%)	0人 (0.0%)	55人 (87.3%)	8人 (12.7%)
情報学部	88人 (100%)	0人 (0.0%)	77人 (87.5%)	11人 (12.5%)
合計	1,209人 (100%)	10人 (0.8%)	1,034人 (85.5%)	165人 (13.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 株式会社マイナビ、住友林業株式会社、雪印メグミルク株式会社、アディダスジャパン株式会社				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>各教授会で科目担当者を決定した後、前年 11 月下旬に教員にシラバス作成 (Web 入稿) を依頼する。その後、各学部が記載内容の確認を行い、必要に応じて修正を加え、3 月上旬にホームページ上に公開する。シラバスの記載内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 (演習) テーマ ・ 講義 (演習) 概要 ・ 卒業認定・学位授与の方針との関連 ・ 到達目標 ・ 講義スケジュール (授業計画) ・ 評価基準・方法 ・ 授業外学習の指示 ・ 履修上の注意 ・ オフィスアワー ・ 教科書 ・ 参考文献 ・ 関連 URL ・ 担当者からの一言
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>担当教員は各科目のシラバスに記載した方法により評価を行い、合格した受講生には所定の単位が授与される。評価の基準は次のとおり設定し、ホームページ等で公表している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評点</th> <th>評価</th> <th>可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100 点～90 点</td> <td>S</td> <td rowspan="4">合格</td> </tr> <tr> <td>89 点～80 点</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>79 点～70 点</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>69 点～60 点</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>59 点～40 点</td> <td>D</td> <td rowspan="2">不合格</td> </tr> <tr> <td>39 点～ 0 点</td> <td>E</td> </tr> <tr> <td>成績認定</td> <td>R</td> <td>認定 (合格)</td> </tr> </tbody> </table> <p>■商学部</p> <p>商学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士 (商学) の学位を授与する。</p>	評点	評価	可否	100 点～90 点	S	合格	89 点～80 点	A	79 点～70 点	B	69 点～60 点	C	59 点～40 点	D	不合格	39 点～ 0 点	E	成績認定	R	認定 (合格)
評点	評価	可否																		
100 点～90 点	S	合格																		
89 点～80 点	A																			
79 点～70 点	B																			
69 点～60 点	C																			
59 点～40 点	D	不合格																		
39 点～ 0 点	E																			
成績認定	R	認定 (合格)																		

養成する能力

- ・幅広い教養と商業に関連する、基本的かつ専門的な知識を身につけている。
- ・実践的な情報リテラシーとコミュニケーション能力を備えている。
- ・経済社会における諸問題の解決能力を備えている。
- ・ビジネス活動の社会的貢献と責任を理解することができる。
- ・獲得した知識・技能等を総合的に活用して課題を解決する能力を備えている。
- ・課題解決能力を支える視野の広い実践的な人格や態度を有している。

■経営学部 経営学科

経営学部経営学科では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。
- ・経営・管理に必要な基礎知識と技能を習得している。
- ・基礎知識・技能に基づく問題解決能力を身につけている。
- ・チームの一員として協働するコミュニケーション能力を身につけている。
- ・社会性を意識しつつ、挑戦する力を備えている。
- ・世界を見据えた経営・管理能力を身につけている。

■経営学部 ホスピタリティ経営学科

経営学部ホスピタリティ経営学科では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（ホスピタリティ経営学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。
- ・ホスピタリティ業界におけるリーダーとして運営・経営・管理の知識を習得している。
- ・理論を実践に応用し、行動につなげる力を備えている。
- ・ホスピタリティ精神（柔軟性・チームワーク）を活かしたビジネスコミュニケーションスキルを身につけている。
- ・ホスピタリティ業界の職業倫理を理解し、現場力を備えている。
- ・ホスピタリティ業界のグローバル化に対応する語学力と国際感覚を備えている。

■経済学部

経済学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身に付けるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に、学長の承認を経て卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・物事を合理的・論理的に判断するための思考力を身に付けている。
- ・情報の収集・分析・発信に必要な基礎的・専門的スキルを習得している。
- ・現代社会が抱える様々な課題に対する理解・問題意識を高めている。
- ・社会の変化を多面的に把握するための幅広い知識・視点を身に付けている。

■法学部

法学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、本学の学則に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（法

学) の学位を授与する。

養成する能力

- ・幅広い教養と社会に対する深い関心をもち、問題の本質を見極める能力。
- ・主要な実定法のルールおよび基礎概念について説明できる能力。
- ・正義・公平などの法原則に照らして妥当な結論を論理的に導き出し、問題を解決する能力。
- ・積極的・主体的なコミュニケーションを通じて、他者と信頼関係を築き、社会に貢献する能力。

■外国語学部

外国語学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（英語学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・専攻科目や共通科目（言語）で学修した外国語の基本語彙や基本文法をもとに、幅広い領域の知識と教養を身につけ、より高い外国語の運用能力を実践することができる。
- ・専攻科目や演習科目を通じて、協調性を大切にし、自らの考えをまとめ、相手が理解できるように、意見を発表し、討論・対話をおこなうことができる。
- ・専攻科目の学修を通じて、加速するグローバル化に対応する高度な英語力と独創性さらに実践力を身につけ、物事を広い視野で見ることができる。

■国際学部

国際学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に対し卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与する。

養成する能力

- ・アジア環太平洋地域と国際協力に関する幅広い知識を身につけている。
- ・国際的なコミュニケーション・スキルや論理的思考力を身につけ、応用できる。
- ・自分で課題を設定し、情報を収集分析し、その課題を主体的に解決することができる。
- ・世界および日本の文化の多様性を尊重し、視野の広い実践的人材として社会で積極的に行動できる。

■情報学部

情報学部では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけるべく編成・実施された教育課程の学修を通じ、履修規程に定める所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士（情報）の学位を授与する。

養成する能力

- ・幅広い教養を身につけ、物事を多面的に考察する力。
- ・コンピュータサイエンスの基礎と人間の情報処理の基本的理解。
- ・情報コンテンツを始めとする情報通信技術の応用分野についての概括的な知識。
- ・数理的・論理的に思考する能力。
- ・他者とも有効な議論を行うことによって問題を解決する力。
- ・現代社会における情報システムの役割を理解し、倫理的な問題についても正しい判断を導く能力。

・獲得した知識や技能を総合し、広い視野を持って、新しい技術にも対応できる実践的な課題解決能力。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
商学部	商学科	124 単位	有・無	単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	単位
	ホスピタリティ経営学科	124 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
法学部	法学科	124 単位	有・無	単位
外国語学部	英語学科	124 単位	有・無	単位
国際学部	国際学科	124 単位	有・無	単位
情報学部	情報学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.ogu.ac.jp/guide/campus/campus.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
商学部 他 (1, 2, 3 年次生)	商学科 他	928, 000 円	200, 000 円	200, 000 円	施設設備費
商学部 他 (4 年次生)	商学科 他	928, 000 円	200, 000 円	160, 000 円	施設設備費
商学部 他 (5, 6, 7 年次生)	商学科 他	928, 000 円	200, 000 円	140, 000 円	施設設備費
商学部 他 (8 年次生以上)	商学科 他	928, 000 円	200, 000 円	120, 000 円	施設設備費
情報学部 (1, 2, 3 年次生)	情報学科	1, 094, 000 円	200, 000 円	200, 000 円	施設設備費
情報学部 (4 年次生)	情報学科	1, 094, 000 円	200, 000 円	160, 000 円	施設設備費
情報学部 (5, 6, 7 年次生)	情報学科	1, 094, 000 円	200, 000 円	140, 000 円	施設設備費
情報学部 (8 年次生以上)	情報学科	1, 094, 000 円	200, 000 円	120, 000 円	施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

教育開発支援センターが企画・運営する「学習支援室」では、1 年次生を対象として国語・英語・数学の基礎学力の向上、リメディアル教育、文章作成等の個別指導や学習相談を行っている。また、2 年次以上の学生に対しては前述の支援に加え、就職活動対策として SPI 対

策（言語系・非言語系）、一般教養の個別指導を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>キャリアセンターでは、「学生の進路支援に関する方針」に基づき、スタッフが個別にカウンセリングを行い、求人紹介および学生の個性、能力を最大限に引き出すアドバイスを行っています。</p> <p>また、主にゼミナールを活用した学部、教員との連携や、早期に内定を獲得した大学4年次生が、後輩の就職活動に対する相談に応じるキャリアチューター制度を設けるなど、大学全体で学生をフォローする体制を充実させています。</p> <p>インターンシップは、事前・事後授業を行い、学生が就業体験を通じ、自らの適性、働く意味や将来のキャリアを考える有意義な機会となっています。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>毎年、定期健康診断とスポーツ系のクラブ・サークル所属者に対してスポーツ検診を実施。定期健康診断時にUPI テストも行っている。学生相談センターでは臨床心理士による相談を月～土の週 6 日受け付けている。</p> <p>また、保健センターに週 2 回臨床心理士が在席し、昨今増加しているメンタル面の不調について学生が相談しやすい環境を提供している。障がい学生支援室を設置し、障がいのある学生の修学に困難が生じている場合、支援を行っている。</p> <p>その他、教育開発支援センターが企画・運営する「学習支援室」では、特別支援教育士や臨床心理士を配し、発達に凸凹のある学生のメンタルサポートを含む学修支援を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.ogu.ac.jp/guide/disclosure/release/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127310107983
学校名 (〇〇大学 等)	大阪学院大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人大阪学院大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1,436人（744）人	1,354人（676）人	1,466人（744）人
内 訳	第Ⅰ区分	533人	488人	
	（うち多子世帯）	（111人）	（98人）	
	第Ⅱ区分	197人	194人	
	（うち多子世帯）	（41人）	（34人）	
	第Ⅲ区分	141人	151人	
	（うち多子世帯）	（42人）	（41人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	15人	18人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	160人	139人	
	区分外（多子世帯）	390人	364人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（-）人
合計（年間）				1,472人（745）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当)	45人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲 が著しく低い状況	48人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	105人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	一人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	19人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	22人	人	人
G P A等が下位4分の1	292人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	一人	人	人
計	315人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。